

指 定 管 理 業 務 評 価 結 果 書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	倉敷市倉敷児童館（くらしきすこやかプラザ共通部分含む。）
(2) 指定管理者	所在地 倉敷市笹沖 1 8 0 番地 名 称 社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団 代表者 理事長 藤澤 徳久
(3) 公の施設の所管部署	保健福祉局子ども未来部子育て支援課
(4) 評価対象期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

2 総合評価結果

(1) 市の評価	児童館・児童センターは、地域の子どもたちの健全な遊び場として、地域における児童福祉の重要な拠点の役割を担っている。	総合評価
	利用者である乳幼児とその保護者、小学生及び中高生などそれぞれの年齢層に合ったイベントなど工夫を凝らした行事を実施し、合わせて保護者の子育て支援や相談対応を行い、地域との連携を深めている。その結果、市内の他の児童館・児童センターを含む 6 館合計でおよそ 2 3 万 8 千人もの方に利用者していただき、館により多少の増減はあるものの、全体としては前年度より増加している。 こうした中、令和 6 年度の評価に当たっては、「事故防止・防犯対策」、「保護者の子育て支援」、「こども等の意見を表明しやすい環境づくり」の三点を重視して評価を行った。 事故防止については、病気、負傷等のマニュアルを整備したり、緊急連絡先を明示したりする等の基本的な対応ができているほか、ヒヤリ・ハット事例の情報共有を職員間で行うなど事故防止の対策ができている。遊具についても、職員が毎日清掃・点検するとともに、専門業者による点検を年に 1 度は行い、不備があれば速やかに改善し	A

	ており、備品の転倒防止措置なども確実に実施している。防災防犯についても、マニュアルを整備し、避難訓練を実施しており、対策が徹底されている。今後についても、前年度に策定した安全計画に基づき、また、必要に応じて改定を行いながら、引き続き子どもたちが安全安心に利用できるよう、しっかりとした運営を行ってみたい。 保護者の子育て支援については、日ごろの声掛け等で保護者とよい関係性を築いており、普段のなにげない会話のなかで保護者の不安解消に努めている。また、関係機関と連携し子育て相談やふれあい活動を実施したり、子育てイベントの情報提供を行うなど、保護者と関わる機会を設けたりしている。今後については、利用者同士の相互交流ができるイベントの充実など、より利用者が安心して利用できる居場所となるよう努めていただきたい。 こども等の意見を表明しやすい環境づくりについては、従来から引き続き、職員による来館時や各部屋での声掛けを各館共通して実施しており、利用者とのコミュニケーションが図られるとともに、気軽に話しやすい雰囲気作りができています。また、これに加え、意見箱を設置し、直接意見が言いづらい利用者への配慮もなされている。また、倉敷児童館においては、子どもたちが運営スタッフとしてイベントに参加するなど、積極的な取り組みもあり、今後も引き続きこども等の意見を表明しやすい環境づくりに努めていただきたい。	
(2) 指定管理者の自己評価	地域の児童が心身ともに健やかに育つための環境づくりを行うとともに楽しくふれあえる場、安心・安全に過ごせる居場所を提供し、児童福祉の向上に努めました。 保護者の子育て支援にも取り組み、相談対応や情報提供を積極的に行いました。 ・児童館で共通に取り組んだ事業 児童福祉週間の一環として、児童館の特色を活かした行事「ごー！ごー！！じどうかん」をそれぞれの現状に応じた形で行い、参加者に楽しんでもらうことができました。	

・おでかけ児童館事業

楽しい遊びを積み込んだ「おでかけ児童館号」で、地域のイベントや親子クラブ、放課後児童クラブ等、児童館を利用しにくい地域へ出向いて工作や遊びを提供する「おでかけ児童館」を市内の 5 児童館と連携し、あわせて 3 4 5 回実施しました。

また、6 館合同で「キッズカーニバル」を実施した他、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」、「倉敷市こどもまつり」等に参画しました。

・地域の健全育成の環境づくり

児童館活動の内容を広報くらしきや子育て支援アプリ、児童館だより、ホームページ等で P R し、児童館活動に関する理解や協力が得られるように努めました。

・ボランティアの育成

児童館を利用するこどもがボランティアとして活動できるよう支援しました。

また、感染症に留意しながら、学生ボランティアを可能な限り受け入れて次世代育成に努めました。

・休日保育に関する事業

休日に保護者の就労等で家庭での保育が困難な時に乳幼児を預かる事業に取り組み、児童館のノウハウを生かした保育を実施し、保育ニーズに応えました。

・岡山県児童館連絡協議会の運營業務

「岡山県児童館連絡協議会」の運営事務局を担い、研修会の開催や児童館のネットワーク作りに努めました。

・自主事業

季節を感じる簡単な調理体験や、食べることの大切さを理解できる活動を通して、食に対する関心をもつ機会を提供しました。

発達段階に応じた年齢別行事を実施し、親子や友達と交流する機会の充実に努めました。

「おもちゃバンク」の周知を図りつつ、交換又は譲渡の方法を改善しながら引き続き実施し、おもちゃの再利用の促進に努めました。

地元の中・高校生の夏のボランティア体験や職場体験を受け入れ、次世代育成に努めました。

	事業団職員を講師とし、こどもや保護者を対象とした「運動遊び」や「育児相談・身体計測」、「福祉体験」等、利用者のニーズに応えられる企画の実施に努めました。 ・ 3 施設交流行事 有城荘、ふじ園と合同で実施した「くらしきすこやかプラザまつり」では、こどもたちが運営スタッフとして参加し、まつりを盛り上げてくれました。また、有城荘と「カラフル丸かご作り」、ふじ園と「交流花植え」を実施し、それぞれの利用者と楽しく交流できました。
(3) アンケート結果の概要	6 児童館分をまとめてグラフ化し、提出します。

3 施設の利用状況

(1) 利用実績	名 称	利用者数（人）		特記事項
		令和 6 年度	令和 5 年度	
	倉敷児童館	53,116	53,371	
	倉敷北児童センター	52,182	49,201	
	水島児童館	30,009	28,890	
	児島児童館	23,775	21,193	
	玉島児童館	44,891	41,968	
	真備児童館	33,849	34,214	
	合 計	237,822	228,837	
	開館日一日あたりの 平均利用者数	136.6	130.2	
(2) 事業の内容	・ 児童館で共通に取り組む事業として「ごー！ごー！！じどうかん」を地域の現状に応じた形で実施 ・ 6 館合同で、「キッズカーニバル」を実施し、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」等のイベントに参画 ・ 地域のイベントや親子クラブ、放課後児童クラブ等、児童館を利用しにくい地域での「おでかけ児童館」を実施			

	・遊びを通して健全育成を図る体力増進活動、文化・創造活動、食育活動の促進 ・こども同士の交流及び日常生活の支援 ・こどもと保護者が自由に交流できる場所や子育てに関する情報の提供 ・関連機関の協力を得ての子育て相談やふれあい活動の実施 ・児童健全育成のための広報活動 ・地域組織（母親クラブ）活動の支援 ・ボランティアの育成、実習生や体験学習の受け入れ、地域住民がボランティアとして活動できる場を可能な限り提供 ・配慮を必要とするこどもへの支援 ・休日保育事業 ・岡山県児童館連絡協議会の運営業務 ・自主事業（食育活動、おもちゃバンク、ボランティアや実習生受け入れ、異年齢又は年齢別の行事、事業団内での講師派遣交流）
(3) その他	・引き続き利用者に手洗いや換気等の感染症対策への協力を求め、机の配置の工夫や消毒作業等により環境を整えながら利用者を受け入れ、行事を実施しました。 ・小学校、幼稚園の学校評議員会や子ども・子育て支援審議会等、関係機関の各種委員を積極的に努め、地域の子育て支援団体とも連携しました。 ・引き続き備品配置や運用ルールの検討を重ね、利用者の安全確保に努めながら開館しました。

4 収支

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 67,650千円 市からの指定管理料（委託料） 66,893千円 利用料金 600千円 その他の収入 157千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 65,487千円 主な支出 人件費 45,121千円 光熱水費 3,633千円 修繕料 72千円

	備品購入費	0 千円
	消耗品費	1 , 2 8 0 千円
	施設管理委託費	3 , 5 9 4 千円
	その他経費	1 1 , 7 8 7 千円